

# 第 1663 回例会報告

令和2年10月 15 日(木)晴

## ◇幹事報告◇

### 会長挨拶

#### 次世代の担い手を育て上る

会長 田中久登

今日は、チャイルドすわ運営委員長の宮野孝樹様にお越しいただきました、卓話をしていただきます。さらに、うれしいことに、桑沢一郎ガバナーエレクトに来所いただきました、のちほど、ご挨拶を頂きたいと思ひます。

さて、昨今、コロナ禍での私たちの生活に多くの影響がでております。さらに自然災害による多くの被害がでております、これは地球温暖化の影響が顕著に出始めた結果であるととらえられています。これらの多くの変化に対応するには、若者に期待しなければなりません。この会の皆様は地域のさまざまな経済活動、産業文化の担い手でもあります。

私たちが次世代の担い手を育て上げる必要があります、どうか皆様の力を発揮していただき次世代の担い手を育て上げていただくことをお願いしたいと思ひます。

#### 【報告事項】

#### 【理事会報告】

#### 1)11月の例会予定

11月	回	内容	担当
5日	木 1666	信州大学宮原研究室 市川様卓話	社会奉仕
12日	木 1667	ガールスカウト助成金贈呈と卓話	青少年奉仕
19日	木 1668	委員長卓話形式アンケート	国際奉仕
26日	木 1669	岡谷エコーRC内澤伸治氏による卓話	クラブ会報 雑誌広報

#### 2)10月4日(日)地区大会清算について

昼食補助、出張費を支払います

#### 4)幹事・事務局から

1. ガバナー補佐選出委員会報告

鋭意選出中です

2. 次期役員理事指名委員会開催について

10月27日に開催されます

#### 【受領文書】

ハイライト米山が届きました。回覧いたします

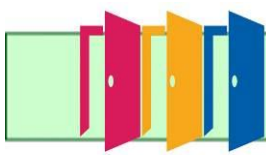
### 桑沢ガバナーエレクト来訪

次期会長エレクト、次期幹事研修会に使う資料作成のため、桑沢一郎ガバナーエレクトがビジターとして来訪されました。

地区ではまだまだあまり行われていないZOOM例会をいち早く開催したクラブとして取材し、例会開催



♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のこトバ	
会員数	38人	12人	29000円	宮野孝樹様 今日はお話よろしくお願ひします。又、桑沢一郎ガバナーエレクトにもお越しいただき、本当にうれしく思ひます。会長 田中久登	
出席対象	38人	累計	181000円	宮野様いつもお世話になっております。今日はお忙しい長お越しいただきありがとうございます。お話楽しみにしております。ガバナーエレクト様も今日はよろしくお願ひ致します。森山 広	
出席者数	26人	目標額	60万円	元気です。大澤邦夫	
出席率	57.8%	達成率	30.2%	チャイルドラインの宮野様をお迎えして。平山隆勇	
前回修正	100.0%			10月4日の地区大会には14名の参加ありがとうございました。しっかりと視察をする事が出来ました。来年度の地区大会まで協力をお願いいたします。小松孝弘	



の一方法として紹介いただけるとのことです。



ご挨拶いただいた桑澤ガバナーエレクト↑と事務局と打合せ風景↓



### 地区大会御礼とビデオ放映

高林地区大会実行副委員長から、大会参加の御礼の挨拶がありました。その後 地区大会の会場ですて上映された来年度地区大会主管の諏訪湖クラブからの招待(CM)DVDの鑑賞をいたしました。



## 今月の結婚祝

今月は大勢の方のご結婚をお祝いしました



小口直久・近江誠一、西澤賢二、高林一紀、平山隆勇、林洋三の各会員

### 第1663回例会

#### 「寄り添う活動」

講師 チャイルドラインすわ

運営委員長 宮野孝樹様

青少年奉仕委員会担当例会

『チャイルドラインすわ』の事業を立ち上げて15年経ちました。チャイルドラインとは簡単に言うと18歳以下の子供達の専用電話ということで、子供達と四つの約束をしています。①名前を言わなくていいよ ②どんな話でも聞きますよ ③秘密は守るよ ④切りたくなったらいつでも切っていいよ これにより気楽に話せ、信頼関係が作られ、子供達に主体性をもたせるよう考えられています。



電話の受け手ボランティアが子供達に指導・指示をしたり、評価や説教をしたりすることはありません。子供達の言う音をじっくり聞いて子供達と一緒に考え、そして最も大事にしていることは、子供達のその時の気持ちを受け止めて寄り添う電話です。

かかってくる電話の数は、諏訪だけでも年間3000件を超えますが、話しが成立するのはおよそ1000件位です。長野県全体(諏訪、長野、上田、佐久の四つのチャイルドライン)では約12000件位です。アンケートによると、73%の子供達がチャイルドライ

ンのことを知っていました。また、何かあったらどこへ電話をかけますかという質問には40%の子供がチャイルドラインに電話をすると答えました。これは毎年27万枚のカードを全県に配っていることと、実際に電話してきた子供達の信頼を得ていると思っています。男子が60%、女子が40%位で、年齢別では中学卒業～18歳までが50%位、中学生が17%、小学校高学年が9%、低学年が5%ですが、固定電話がだんだん無くなってきたため、携帯を持たない小さな子供達が電話をかけることができないことが大きな課題だと思っています。

電話の内容が一番多いのは人間関係(いじめ、虐待などを中心とした)で、かけてくる動機は何か問題を解決したいというより、話を聞いて欲しいというのが78%、答えが欲しいというのが15%、誰かとつながってほしいというのが4%位となっています。

私たちが話を聞いていて問題だなと思うのは、子供達の自尊感情(自己肯定感)が非常に低い子供が多い、また自分の悩みなどを人に話せない、身近に相談できる人がいない(学校の先生や親に話せる状態にない)というのが数字として大きくなっていることでした。

社会的問題としては格差社会というのが子供達の話しから感じられることです。相対的貧困率の非常に高い中で子供達は生活しています。日本の子供の相対的貧困率(2015年度の統計)は13.9%(7人に1人)の子供が貧困層になっています。母子世帯では58%(半分以上)で貧困層となっています。絶対的貧困と違い、目に見えない相対的貧困層の子供達に何が起きているかというと、食べるものが十分でない、夏休みは給食が無くなるので体重が減ってしまう、お医者さんに行かれず、保健室で対応している、また学習塾にいけない、外食・遊園地・旅行に行ったことがないということなどです。

親の代わりに自分が妹や弟の面倒を夜もみなくてはいけないので、高校や大学に能力があっても行けないという教育格差の問題がある。このような余裕のない生活をしていると、子供達に大きな影響が出てきます。「どうして自分がこんな暮らしをしないといけないのか」という気持ちと、更に進んで「どうせ自分なんか」というようなあきらめの気持ちになってくるというのは大変大きな問題だと思います。そういうことが不登校につながったり、非行や犯罪につながったりするケースが出てくる可能性があります。

以上のお話の後、格差社会が生んだ犯罪『黒子のバスケ』事件・・・漫画『黒子のバスケ』(集英社)の作者や作品の関係先各所を標的とする一連の脅迫事件(平成24年)についてお話しされ、犯人が貧しいだけでなく、小さい頃から両親にひどい虐待を受けていた過去があったことを知りました。宮野さんは「学習支援や子供食堂など様々な支援が行われているが、これらは対症療法でしかないと思う。非正規労働者の増加をはじめとして、雇用問題や賃金の配分など、この国の社会政策や経済政策を具体的に考えていかないと貧困はなくならないし、そこから発生する負の連鎖が解決しないと思う」と結ばれました。電話でたくさんの子供達の声を聞いた上での言葉ですので、重く心に響きました。

青少年奉仕委員長 平山隆勇

## 次期会長・幹事ウェビナー

次期会長・幹事研修会がZOOMによるセミナー(WEBセミナー)として実施されました。参加した次期幹事宮坂英貴会員より、その様子が投稿されたので記載します。

少し味気ない気もしますが、こうしたことがWithコロナなのかもしれません。

